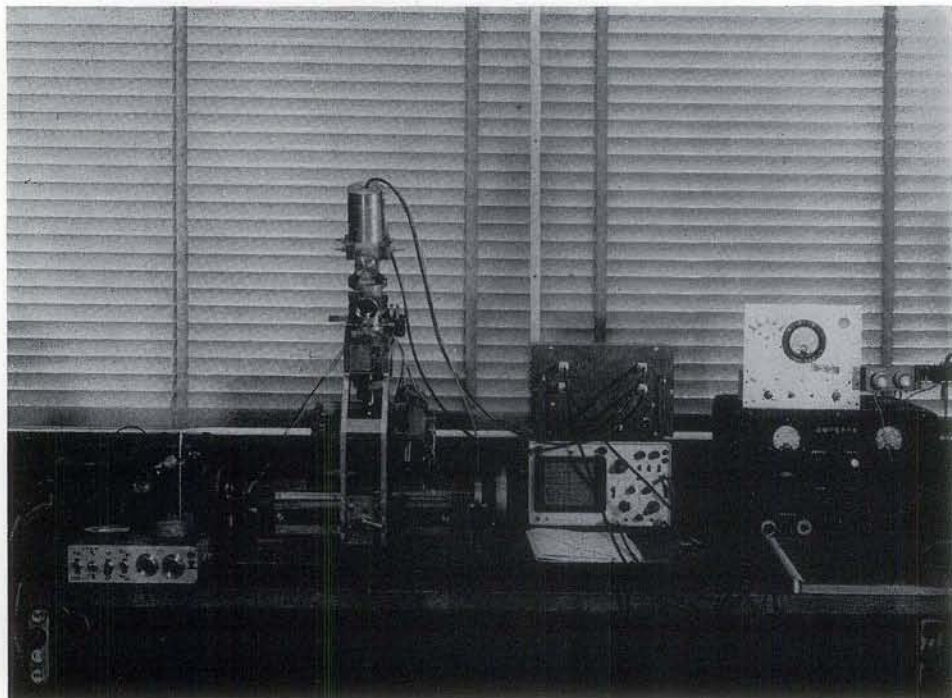
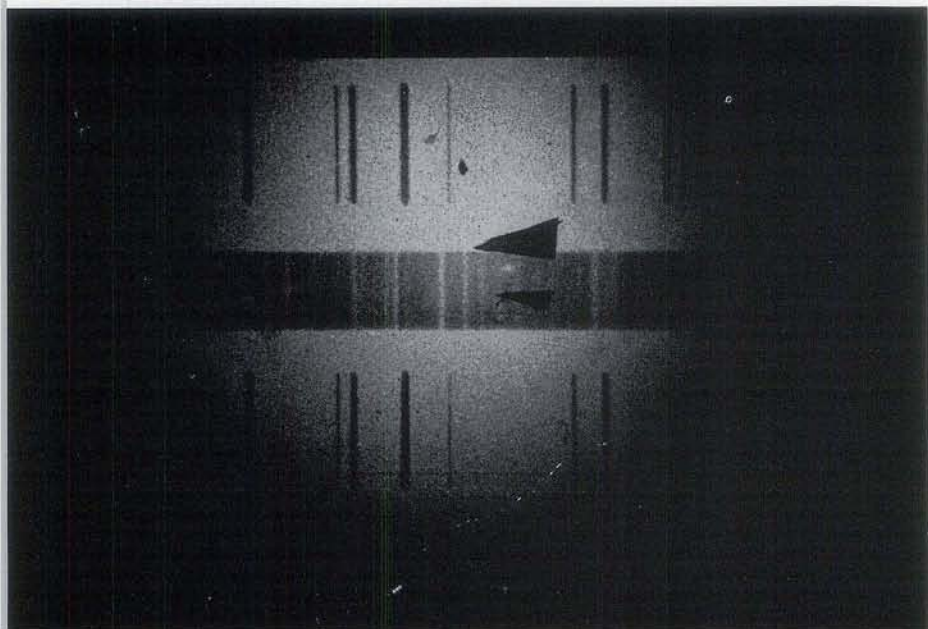


# 光電式二重像コンパレーター

(同名の本文記事 114 ページを参照のこと)



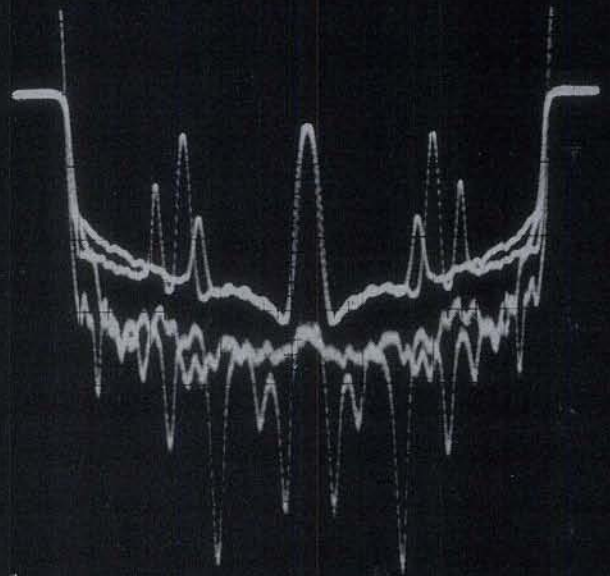
東京天文台実験工製場の受光部を島津製作所製コンパレーターにとりつけたところ。  
その右のオシロスコープに像がうつる。



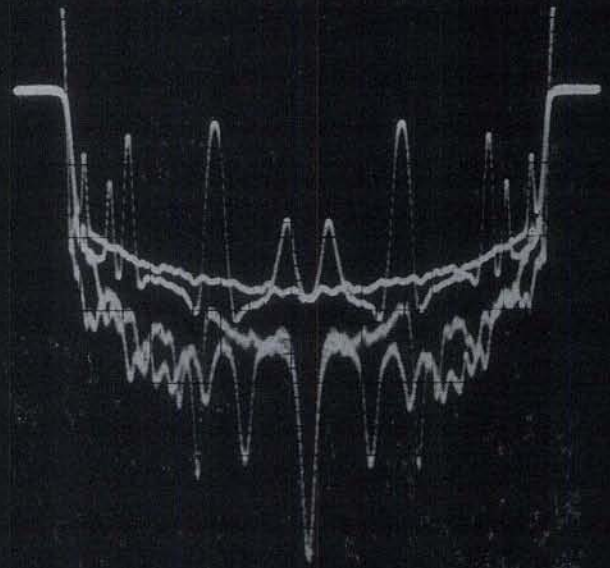
輪郭をかいているあたりの  
スペクトルの模様

中の太い帯が星のスペクトル、  
上下の黒い線が比較スペクトル

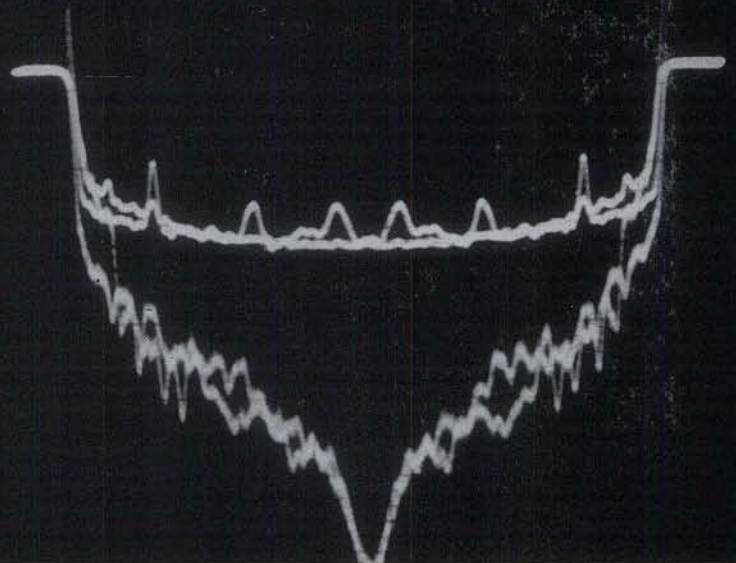
オッシロスコープ面上の写真  
比較スペクトルのうちの一  
本が重なりあっている(上の線)



星のスペクトルのうちの一  
本が重なりあっている(下の線)

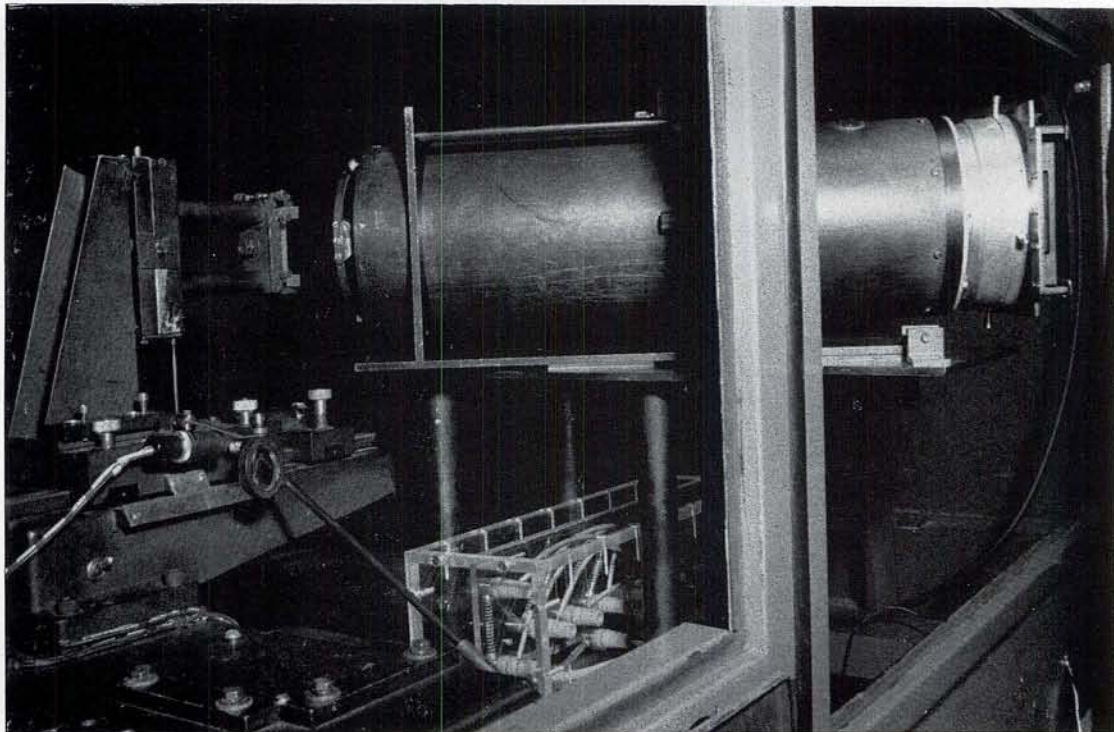


星のバルマー線を重ねあわせ  
たところ

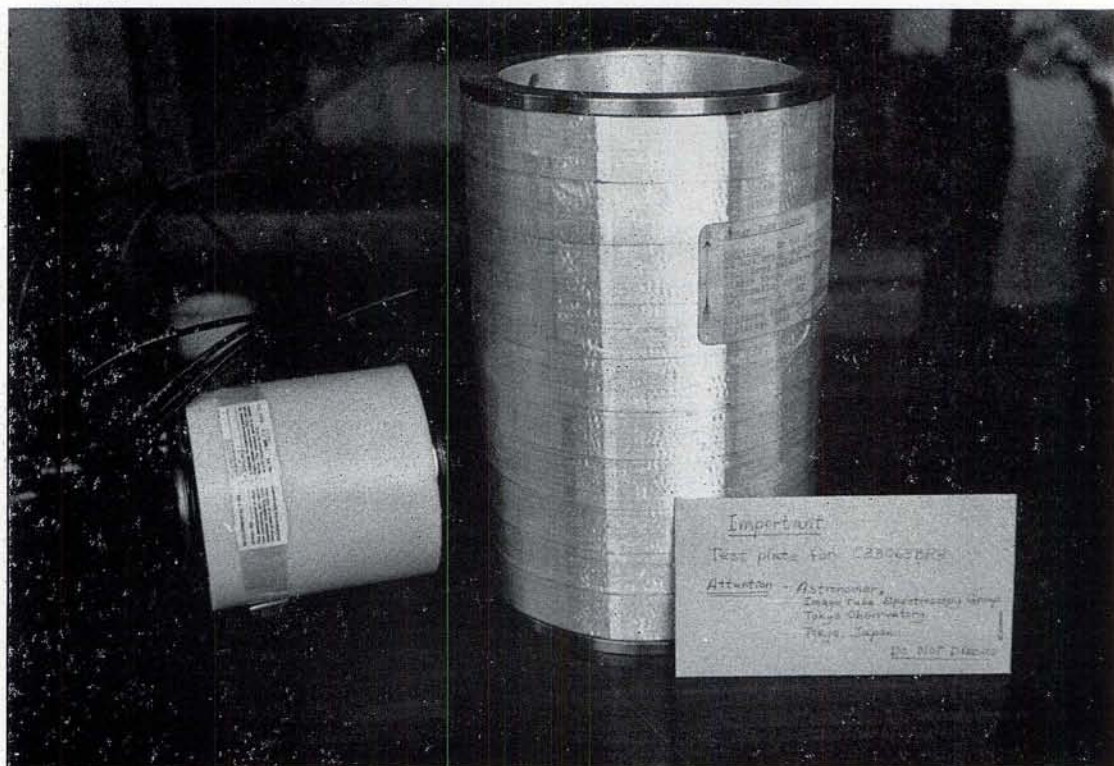


## 岡山天体物理観測所の新しいイメージチューブ

カーネギー研究所から 1967 年に寄贈されたイメージチューブは微光天体のスペクトル撮影に威力を見せていたが、耐用年限がきて動作しなくなったため、東京天文台はこのほど新しいイメージチューブを購入した。



真横からみたイメージ管，クーデ分光器の F/15 カメラ焦点に置かれている。中央，管をさえぎっている柱の左の部分にイメージ管が入っており，右側は螢光面を写真乾板にうつすレンズが入っている。左側は普通プレートホルダーをのせる台で，今は光路を管の方に曲げる鏡がのせてある下のアクリル函のなかは，陰極や電子レンズにかける高圧の分圧器。



裸のイメージ管，左側に横になっている短い筒がそれ，右側の中空円筒は，磁石。イメージ管の腹は，白い絶縁物で覆われている。いくつかのシリンダーやリングで，磁石のほぼ真中に管が支えられ，更に後にレンズを組込まれる。